

村山龍一後援会 報告

後援会事務連絡

第1号

聴きます。行動します。実践します。

「強い大津町を創るには、前進あるのみ」

「39年間の行政経験を生かし、まちづくりに取り組みます」

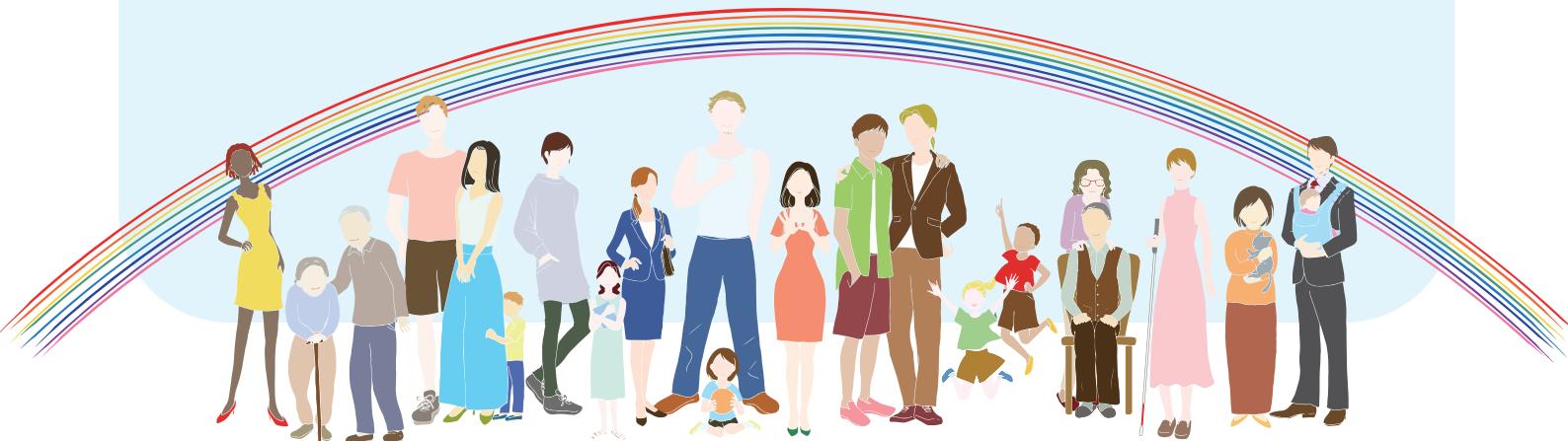


ごあいさつ

令和7年3月議会において、傍聴においていただきお礼申し上げます。

また、村山龍一の一般質問の時間帯には約30名の方々に傍聴いただき感謝申し上げます。これからも、一般質問を行っていきますので、引き続き傍聴をよろしくお願ひいたします。

今回、後援会の皆様へ第1号のご報告をさせていただきます。今後とも、「聴きます。行動します。実践します。」で行ってまいりますので、皆様方のご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いします。



村山龍一の3本の柱

インフラ整備

生涯教育の推進

安全・安心の確保

村山龍一後援会事務所

〒869-1211 菊池郡大津町矢護川1025-3

電話番号 090-1340-7892

2025年(令和7年)2月2日 大津町議会に初当選

経済建設常任委員会副委員長、議会運営委員会副委員長
菊池広域連合議会議員、議会広報編集特別委員会委員

【プロフィール】

大津町立矢護川小学校卒業 大津町立大津中学校卒業 熊本県立菊池高等学校卒業
昭和57年からALSOK(総合警備保障株)に就職し、東京警送事業部に勤務。退職後、大津町に戻る。
昭和59年12月10日～昭和60年3月15日、本田技研工業(株)熊本製作所に勤務。
昭和60年4月1日 大津町役場 奉職
企業誘致課長、都市計画課長、土木部長、都市整備部長、産業振興部長
令和6年3月31日 退職
令和6年4月1日 定年前再任用 令和6年10月31日 退職

【趣味】

剣道
小学5年生から剣道をはじめる。
剣道教士 七段

スマートフォンで視聴
右記の二次元コードを読み取ると
スマートフォンから
議会中継がご利用になれます。



村山龍一 令和7年3月定例会の報告です (3月、6月、9月、12月の年に4回あります)

質疑を本会議で3つ。委員会では、農業委員会、農政課、商業観光課、企業振興課、建設課、都市計画課、下水道課、工業用水道課すべての課に質疑を行いました。

一般質問(3つ)を行いました。

質疑とは、議題となっている事件についてその提出者に対し、疑義をただすもの。

質問とは、町の行財政全般にわたって、執行機関に対して説明を求めまたは所信をただすこと。



町ホームページから引用

1つ目

「世界で1番住みたいまち、住み続けたいまち」について

質問:金田町長が目指す「世界で1番住みたいまち、住み続けたいまち」とは、人口が増加し収入を安定させる町。人口を5万人以上にして市制を目指すのか。菊陽町と合併を目指すのか。合志市と菊陽町と合併をして東熊本市を目指すのか。具体的にどのような町なのか、町長の考えを問う。

答弁(抜粋):まちづくりで大切なことは、単に町の拡大発展ばかりを目指すのではなく、様々な変化の中で、いかに住民の皆様の暮らしを維持、向上させるかだと考えております。人口や立地企業数がいかに増加しても、今、住み暮らす皆様、あるいは新たに移り住む方々にとってよい環境とならなければ、それは成功したまちづくりとは言えないと考えております。また、町の合併によるメリットはそれほど見出せないと感じていますので、町単独で町政を継続したいと思います。

2つ目

トップセールスについて

質問:金田町長の基本方針である、「民間の知恵と活力を生かす」、「先進技術(ＩＣＴ)の活用」、「具体的な制度と仕組化」、「強力なトップセールス」を一貫して示し基本姿勢は継続されている。その中で、「強力なトップセールス」について町長の考えを問う。

答弁(抜粋):私の定義しているトップセールスとは、企業誘致や国県への要望等に限定したものではなく、住民の皆様との協働を進めるために、トップが誰よりも汗をかき、足を運び、さらにしっかりと情報発信をしながら、率先して町内の様々なことに取り組むことが、協働に向けて必要な姿勢だと考えておりまして、それを一つのトップセールスと定義しております。

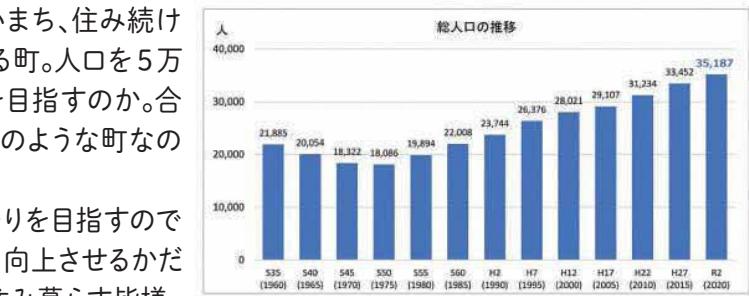
3つ目

2期目の町政の重点事項について

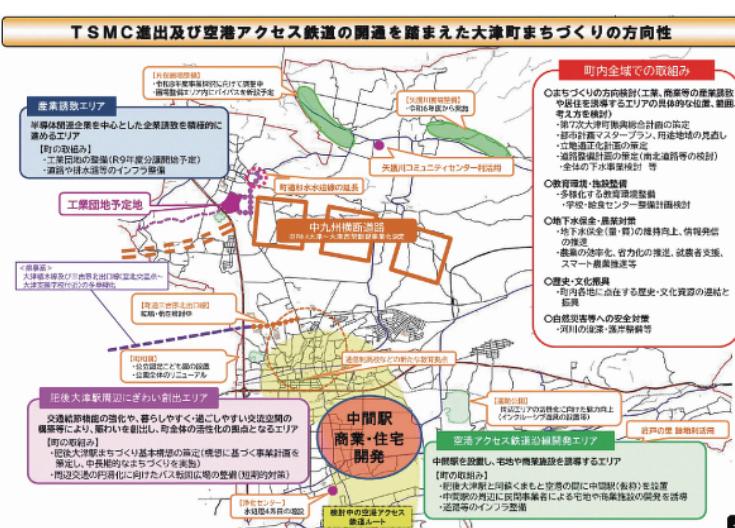
質問:強い大津町を創るには前進しかないと思っている。道路網の充実、上下水道の整備、河川整備や排水路の整備が必要と考える。

地域の発展のためにはインフラ整備が必要である。町長の取り組みと基本姿勢の中で、【新しい大津】の都市づくりの内容と「町内全域での取り組み」についても、町長の考えを問う。

答弁(抜粋):2期目では、新しい大津のグランドデザインをベースに青写真を描き、国からの予算獲得や用地交渉等を進めてきましたので、これからハード面においても本格的に動き始めます。今後のまちづくりの方向性としては、単に町を発展させていくことだけを目的にするのではなく、変化の中でも、現在町に暮らす方がより幸せになる、そして、これから住み始める方や、子どもたち、そして、我々自身が未来も幸せであり続けられる持続可能な幸せなまちづくり、町全体の均衡ある地域づくりを目指していきます。



町まちづくり市民懇談会資料



町まちづくり市民懇談会資料